

平成山鉾

平成山鉾は、平成元年の『福岡よかとぴあ』に10mの山鉾を造って出演したことをきっかけに「10mの高さの山鉾を復活させよう」との機運が高まり、平成2年完成しました。

以降、日田祇園の象徴として、平成6年の「京都平安建都1200年祭」や平成16年の「ハワイホノルルフェスティバル」へ参加しています。

今年、ユネスコ無形文化遺産に登録された、九州の五都市が連携して開催した記念イベントに参加し、日田祇園のPRを行いました。



日田祇園囃子

日田祇園囃子が現在の形になったのは、文化14年(1817年)、日田代官に就任した塩谷大四郎に随行してきた「小山徳太郎」が、代官のお供で長崎に出向き、長崎明奏楽の明笛を習得し、日田に持ち帰ったことが始まりと伝えられています。

現在は保存会が結成されており、手作りの笛で伝統の音色を継承しています。

まつり当日は、“芯”と呼ばれる責任者を中心に笛4・5人と太鼓、三味線各1人が囃子方として各山鉾に乗り、独特の音色で山鉾巡行に華を添えます。



日田祇園の歴史・概要

日田における祇園信仰は、およそ500年前に悪疫鎮護の願いを込めて始められ、正徳4年(1714年)には、現在のような山鉾が奉納されていました。

祭神は素盞鳴尊(すさのおのみこと)。豆田八坂神社・隈八坂神社・竹田若宮神社の三社の祭礼行事で、平成8年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

これらの山鉾は、全て町内の皆さんの手作りによるものです。毎年、歌舞伎の一場面を題材とした飾りつけが行われ、日田唯一の人形師「長嶋静雄さん」の手により、各山鉾に乗せられた人形に命が吹き込まれます。

祭礼への流れ

7月初旬

■小屋入り行事

作業始めとして祭に参加する全員で御神酒上げを行います。

■色あげ作業

解体された山鉾の館等の色を塗り直し、金紙を使った欄干の金具等を貼り替えます。

■パイパイ染め

山鉾の高欄の両側に挿すパイパイを、塗料で染め乾かします。

2週間前

■車揚げ

木製の山鉾の車輪は、普段池の水の中に沈められており、山鉾の組立前に池から引き上げます。

■山鉾組立(飾り付け)

色揚げされた館や、車輪等が組み立てられ、パイパイや手作りの松ノ木、牡丹、等を飾ります。

1週間前

■御輿洗い神事

■人形乗せ

各町内に振り分けられた華題の人形を、人形師の指図の元に山鉾に乗せます。

■山番

各山鉾の納所で夜警が始まります。

2日前

■流れ曳き

山鉾のバランスや車の調子を見るための試運転を行います。

■集団顔見世

流れ曳きの日に、豆田4基と隈・竹田4基に平成山鉾を加えた計9基の山鉾がJR日田駅前へ集結します。

当日

■祇園祭典(土日2日間)

豆田地区、隈・竹田地区の各地区ごとに山鉾が巡行されます。

翌日

■山鉾崩し

各町ごとに山鉾の解体や、祇園山鉾会館への収納等の作業を行います。

■仕舞い勘定

掛け振り帳で購入した物の支払いや、山鉾に上がった清酒等が清算されます。

■藪入り

打ち上げを兼ねて慰労が行われ、一切の祭の行事が終わったとされます。